

世界に羽ばたけ！ 米山学友⑫

プロ野球にかける日韓の懸け橋

写真左・千葉ロッテ選手のインタビューで通訳をする李さん（左端）。写真右・わが子と一緒に



昨年11月、長崎県営野球場で「日韓クラブチャンピオンシップ」が開催されました。2005年から始まった「アジアシリーズ」に代わるプロ野球の国際試合として、日本一に輝いた読売ジャイアンツと、韓国シリーズを制したKIAタイガースが対戦。このとき、大会運営・場内アナウンスなどの通訳を任されたのが、(株)プレミア・スポーツ・マネジメント代表取締役、李東勲さんでした。

母国の大学では冷凍工学を学び、成績は常にトップクラス。卒業後に就職した企業でも、将来を有望視される逸材でした。「日本へ留学する」と言いだした李さんに、周囲の誰もが反対したといえます。

原点は“日本オタク”

「僕のなかでマグマが爆発したんです」

日本に興味をもつきっかけとして、アニメやJポップなど日本の大衆文化を挙げる留学生は多くいますが、李さんは“日本オタク”ともいべきマニアでした。

ソウルの実家では、李さんが幼いころから日本製のカレーが食卓に載り、日本製の食器で紅茶を飲み、日本の雑誌や音楽が当たり前のようにありました。今でこそ日韓の文化交流が盛んですが、当時韓国では“日本”と名の付くものはタブー。しかし、貿易で財を成した曾祖父の時代から日本との付き合いがあった李さん宅だけは、日本人によいイメージをもっていただけです。

アイドル歌手のレコードやテレビ番組の録画テープを

日本から送ってもらい、繰り返し聞いた青春時代。「日本に住んで、生の日本を味わいたい!」。積もり積もった情熱が、李さんを突き動かしました。

1999年、会社を辞めて27歳で来日。実家が裕福でも、留学生活は自身で切り開かねばなりません。留学中に家庭をもったこともあり、生活のためアルバイトに追われる日々でした。「何のために来たんだろう」。母国にいたころ、あれほど輝いて見えた日本が色あせて感じられました。

2002年、修士課程最終学年で米山記念奨学生に合格。それは、「砂漠でオアシスを見つけたくらいのうれしさ」でした。その“オアシス”は、人とのつながりに飢えていた李さんの心を潤したのですが、その意味に気づいたのはずっと後のことでした。

プロ野球界に身を投じて

父と兄が野球の名門校出身ということもあり、幼いころから野球は最も身近なスポーツ。大学院でもスポーツマーケティングを研究し、卒業後は野球にかかわる仕事をしたいと思っていたとき、一つの転機が訪れました。

03年、アテネ五輪のアジア予選を兼ねた「アジア野球選手権大会」で、韓国代表チームの公式通訳・広報に抜擢されたのです。この縁をきっかけに、04年、韓国から千葉ロッテマリーンズへの移籍を表明した李承燁選手（現在は読売ジャイアンツ所属）に請われ、専属通訳として千葉ロッテに入社。翌年には、31年ぶりの日本一、そしてアジアシリーズ初代王者に輝き、監督から贈られた優勝記念バットに、ロッテを支えたスタッフの一員として、李さんの名前が刻まれました。

多忙な日々を送るなか、李さんは米山学友として地区主催の行事に誘われても、「面倒だから」と参加しなかったり、返事すら出さないこともありました。「いい加減なものでした」と振り返ります。「でも、今は違います。ロータリアンの皆さんとの付き合いの中で、次第に、学友である自分に声をかけてくれる“相手”の気持ちに気づいたのです。スポーツがそうであるように、すべては

プロ野球の国際試合では、場内アナウンス、ヒーローインタビューのほか、監督会議や記者会見など、多くの通訳・翻訳スタッフが活躍しています。今月は、こうしたプロ野球をはじめとするさまざまなスポーツイベントの現場で、通訳として国際交流を支えたいと日本で起業した米山学友、李東勲さんを紹介します。



よねやまだより

相手があって成立するもの。人との縁は、つくるよりもつなぐことが大切で、努力が必要です。積極的に行事にもかかわっていかう」と思うようになったのです。

08年8月、スポーツを通じてさまざまな国の選手や観客に感動と一体感を味わってもらいたいと、スポーツイベントのサポート・通訳を行う会社を日本で起業。すぐには仕事もなく、半年間は無報酬の苦しい日々でした。そんなとき、ロータリアンの存在が支えとなりました。

「仕事の紹介ではなくとも、方法論や考え方を教えてくれるだけでありがたかった。皆さんの励ましやアドバイスが、トンネルを歩く自分にとっての光であり、出口でした」と、李さん。学友になって7年、ようやく見えてきたこと。それは、米山記念奨学金はお金よりも、ロータリアンの存在こそが「目には見えないプレミアム」だということです。

“個”の世界から“皆”の世界へ

受け身で生きてきた李さんが、自ら参加し、周りの役に立とうと考えるようになった——。その表れの一つが、冒頭の「日韓クラブチャンピオンシップ」です。場内アナウンスや韓国チームの通訳を、本来ならプロに求めるどころ、あえて米山記念奨学生2人に声を掛けたのです。面識もなく、しかも素人の起用に不安はなかったのでしょうか。

「この体験が後輩の進路に役立てば、と思いました。

プロフィール

李 ^{ドンファン} 東勲 さん

(2002-03年/東京神宮RC) 韓国・ソウル市出身。国土館大学院スポーツシステム研究科修士課程卒。2004年、千葉ロッテマリーンズの通訳・広報担当として入社。08年、(株)プレミア・スポーツ・マネージメント(PSM)設立。通訳・翻訳ほか、日韓交流イベント、貿易事業など幅広く展開している。



米山記念奨学生なら人物も優秀だという確信がありました。期待通り、完ぺきな仕事ぶりでしたよ」

李さんは現在、日本で、仲間とともに米山学友を中心にしたロータリークラブを創立しようとしています。

「ロータリアンに支えてもらってここまで来ることができました。まだ私は現在進行形の存在ですが、次の世代のために、仕事の上でも、日韓両国の関係においてもよい環境を残したいと思っています」

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見は、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281

Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

上海万博への来場と合わせ、中国の学友と交流しませんか

2009年3月に正式発足した中国学友会は、北京と上海の2つの支部で構成されており、今年の総会は7月に上海で開かれます。上海分会は2002年、第2630地区・中津川ロータリークラブの支援を受けて発足し、会員相互の親睦活動のほか、数々の社会貢献活動にも取り組んでいます。上海は中国経済の中心地であり、今年は万国博覧会も開かれます。上海分会では多くのロータリアンをお迎えして交流を深めたい、と総会後の懇親会を企画しています。クラブ単位での参加も大歓迎。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。申し込みなど詳細は、米山記念奨学会ホームページをご覧ください。http://www.rotary-yoneyama.or.jp/

日時	2010年7月17日午前10時
場所	上海国際会議センター(予定)
登録料	12,000円/人(要・事前登録)
締め切り	2010年3月31日
申し込み先	米山記念奨学会事務局
備考	上海万博訪問と合わせたツアーもご用意しています。